

安全報告書

2019



北総鉄道株式会社
Hokuso- Railway Co.,Ltd.

千葉ニュータウン鉄道株式会社
Chiba Newtown Railway Co.,Ltd.

安全報告書 2019 目次

1. ご利用の皆様へ	1
2. 路線図・成田スカイアクセス分界概要	2
2-1 路線図	
2-2 成田スカイアクセス分界	
3. 安全に関する基本方針・安全重点施策	3
3-1 安全に関する基本方針	
3-2 安全重点施策	
4. 安全管理体制と安全管理方法	5
4-1 安全管理体制	
4-2 安全管理方法	
5. 安全対策の実施状況	13
5-1 安全対策のための投資実績と計画	
5-2 安全確保のための措置（設備）	
5-3 駅の安全対策	
5-4 車両の安全対策	
5-5 施設の安全対策	
5-6 その他の安全対策	
6. 事故等の発生状況	23
7. お客様へのお願い	23
8. 当社の安全への取組みに対するご意見募集	24

（注） 報告書の記載内容のうち特に会社名が明記されていない事項については、北総鉄道と千葉ニュータウン鉄道が一体となり取り組んできた内容となっています。

1. ご利用の皆様へ



第1種及び第2種鉄道事業者
北総鉄道株式会社
取締役社長 室谷 正裕

平素より北総鉄道をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当社は、「お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します。」との京成グループの経営理念の下、全社員が輸送の安全確保を最大の使命と認識し日々業務に取り組み、当社の健全な事業運営と地域の発展に貢献できるよう努めております。

2018年度におきましても全社員が一丸となって安全運行に努め、1979年の開業以来40年間無事故運転を継続することができました。今後もこれに気を緩めることなく、第3種鉄道事業者である千葉ニュータウン鉄道と協力し、更なる安全管理体制の強化に注力してまいります。

なお、鉄道施設につきましては、2017年度をもって全線に渡る耐震補強工事を終え、現在、列車無線のデジタル化や全線C-A-T-S（高規格のA-T-S＜自動列車停止装置＞）化を推進し、更なる安全な鉄道施設の整備に努めております。

今後も、より多くのお客様が北総鉄道を安心してご利用いただけるよう、安全・安定輸送サービスの向上に全力で取り組んでまいります。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、2018年度の当社における輸送の安全確保のための具体的な取り組みについて、お客様のご理解をいただくために作成したものです。是非、ご一読いただき、皆様の率直なご意見等をお聞かせ下さいますようお願い申し上げます。

第3種鉄道事業者
千葉ニュータウン鉄道株式会社
取締役社長 室谷 正裕

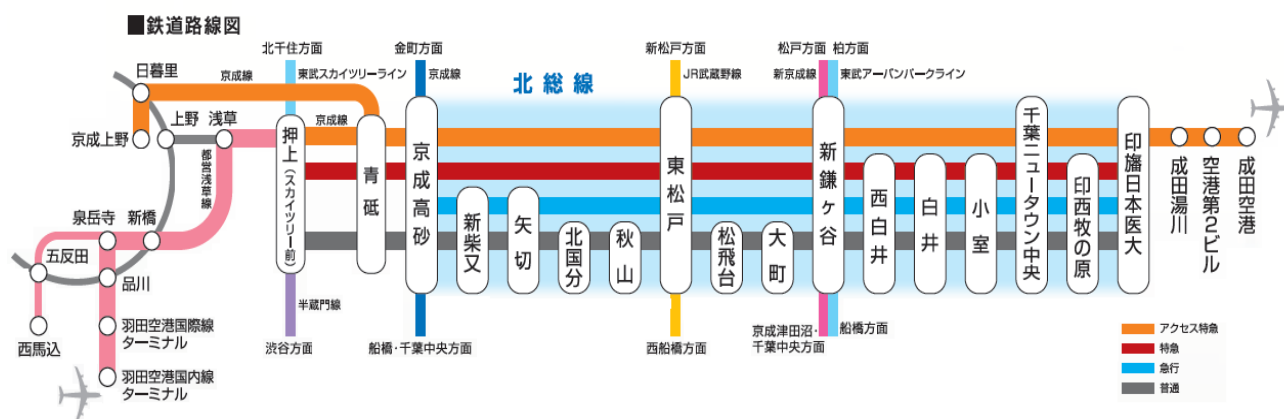
平素より千葉ニュータウン鉄道をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当社は、北総線の小室駅～印旛日本医大駅間12.5^{km}の鉄道施設と40両の車両を保有する第3種鉄道事業者であり、第2種鉄道事業者である北総鉄道に鉄道施設と車両を賃貸いたしております。

また、当社は京成グループの一員として、「お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します。」との京成グループの経営理念の下、輸送の安全確保を最大の使命と認識し、北総鉄道とともに、当社の健全な事業運営と地域の発展に貢献できるよう努めております。今後も、より多くのお客様が北総線を安心してご利用いただけるよう、北総鉄道と一層連携を強化し、鉄道諸設備の適切な維持管理に努め、更なる輸送の安全確保に取り組んでまいります。

2. 路線図・成田スカイアクセス分界概要

2-1 路線図



2-2 成田スカイアクセス分界

	京成上野駅		京成高砂駅		小室駅		印旛日本医大駅		分界点		成田空港
				19.8km		12.5km		10.7km		8.4km	
第1種鉄道事業者 (運送＋財産)	京成電鉄	北総鉄道※									
第2種鉄道事業者 (運送)				北総鉄道							
		京成電鉄(成田スカイアクセス)									
第3種鉄道事業者 (財産)				千葉ニュータウン鉄道		成田高速鉄道アクセス		成田空港高速鉄道			
運行管理業務	京成電鉄	北総鉄道				京成電鉄					
保守業務	京成電鉄	北総鉄道				京成電鉄					

※京成電鉄(成田スカイアクセス)に対しては、実質的に第3種鉄道事業者としての役割を果たしている。

3. 安全に関する基本方針・安全重点施策

3-1 安全に関する基本方針

お客様に安全・迅速・快適に当社線をご利用いただけるよう、私たちは「京成グループ経営理念」と「京成グループ行動指針」に基づき、安全を最優先とする体制の整備に努めるとともに、鉄道施設、車両及び社員を総合的に活用して輸送の安全を確保します。

京成グループ経営理念

京成グループは、お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します。

京成グループ行動指針

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 【安 全】 | 私たちは、安全・安心を第一に行動します。 |
| 【接 客】 | 私たちは、あいさつを励行し、お客様の立場にたって行動します。 |
| 【成 長】 | 私たちは、絶えず自己革新し、新たな価値を創造します。 |
| 【企業倫理】 | 私たちは、すべての人を大切にし、法令・規則を遵守します。 |
| 【環 境】 | 私たちは、自然環境に配慮し、行動します。 |

安全方針

安全第一の意識を持って事業活動を行える体制の整備に努めます。

1. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程を遵守し、厳正・忠実に職務を遂行します。
2. 事故・災害等が発生したときは、速やかに安全適切な処置をとります。
3. 常に向上心を持ち、必要な工夫・改善に努め、安全且つ快適な環境を提供します。

3-2 安全重点施策

輸送の安全に関する基本方針に基づき、輸送の安全の確保を最優先に鉄道諸設備の整備を推進するとともに、安全に対する取組みや施策の継続的な改善を図り、社内の管理体制と各部門間での意思疎通を強化し、今後とも安全・安定輸送の確保に向け努力してまいります。

(1) 北総線及び成田スカイアクセスの安全・安定輸送の継続

- ①京成電鉄との連携の強化

(2) 安全管理体制の更なる強化

- ①ヒューマンエラー撲滅への取組み強化
 - ・教育訓練による安全管理に関する意識の向上
 - ・基本動作励行の徹底
 - ・規程類遵守の徹底
 - ・ヒヤリハット情報の収集及び環境の整備
- ②安全に関する内部監査の充実
- ③協力会社と一体となった安全管理の強化
- ④お客様と連携した安全対策の充実
(例えば、声かけサポート運動等)
- ⑤社員相互間のコミュニケーションの強化

(3) 駅ホーム安全対策の着実な推進

- ①高速列車通過時のホーム監視の徹底

(4) 鉄道施設の安全性向上及び老朽化対策の推進

- ①デジタル列車無線化・C-A-T-S化等更新計画の推進
- ②老朽設備の計画的な更新

(5) 鉄道テロ行為及び列車妨害行為への対応強化

- ①巡回・点検等の強化
- ②関係機関との連絡・連携体制の強化

2018 年度

安全管理者の役割

【北総鉄道】

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者 (鉄道担当役員)	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運転管理者 (運輸部長)	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する
乗務員指導管理者 (運転区長、車両区長)	運転管理者または車両管理者の指揮の下、乗務員の資質の保持に関する事項を管理する
施設管理者 (技術部長)	安全統括管理者の指揮の下、鉄道施設に関する事項を統括する
車両管理者 (技術部長)	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する
安全推進担当	内部監査を実施し、内容が適切に運営されていることを検証するとともに、安全性向上のための施策を安全統括管理者に提言する
その他必要な責任者 (総務部長、経理部長、企画室長)	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務等に関する事項を統括する

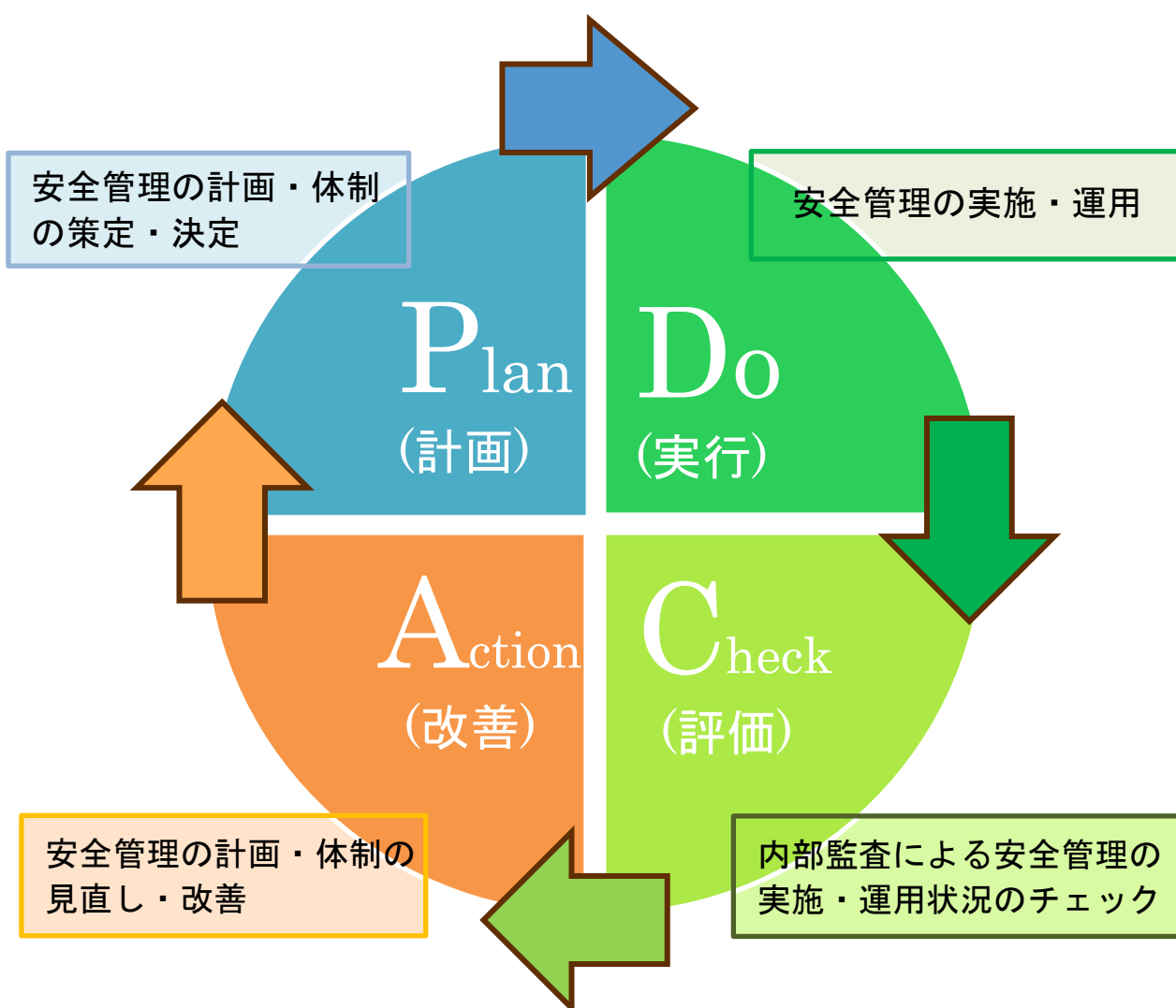
【千葉ニュータウン鉄道】

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者 (施設管理部長)	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
施設管理部長	安全統括管理者の指揮の下、鉄道施設に関する事項を統括する
総務部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務等に関する事項を統括する

4-2 安全管理方法

安全方針及び安全重点施策に基づき、輸送の安全を確保するために様々な会議や運動を実施するとともに、経営トップの意見をはじめとする鉄道の安全に関する情報の共有化を図り、安全管理体制の整備の推進や継続的な「PDCA サイクル」によって随時見直しを行っております。

安全管理体制に係る PDCA サイクル



安全に関する内部監査の実施

日本民営鉄道協会主催の「運輸安全マネジメント内部監査員研修」を修了した監査員による内部監査を毎年継続的に実施し、安全管理体制が適切かつ有効に運用されているかを検証しています。2018年度は経営トップ・安全統括管理者・各管理者をはじめ現業部門を中心に一般管理部門に対しても実施しております。

また、内部監査の充実を図るため、京成グループの京成電鉄(株)が同席し、監査終了後に意見交換を行う等、グループ相互の内部監査体制の充実を図っております。



社長へのインタビュー



技術部現業部門へのインタビュー

全国交通安全運動・輸送安全総点検の実施

お客様のご利用が多くなる時期に、春の全国交通安全運動・夏季の輸送安全総点検・秋の全国交通安全運動・年末年始輸送安全総点検を実施しております。期間中、安全に関する重点項目を設定した上で、各職場毎に重点項目に沿った具体的な取組みを計画・実施し、輸送の安全の確保に努めております。

社長、安全統括管理者による職場巡視

春の全国交通安全運動・夏季の輸送安全総点検・秋の全国交通安全運動・年末年始輸送安全総点検等の期間に、社長、安全統括管理者が定期的、または随時、第一線の職場及び作業現場を巡視し、現状を把握するとともに意見交換を通じ安全の確認及び安全意識の高揚を図っております。



社長巡視（電気区）



安全統括管理者巡視（車両区）

安全推進担当

安全推進担当としての立場から見た業務上の問題点等について、必要に応じて助言や指導を行うことにより改善を図っております。更に各人の安全に対する意識向上のため、今年度はテロ対策講演会や運輸安全委員会事故調査官による講演会を開催した他、技術部の夜間作業に立会い、作業が安全かつ厳正に実施されていることを確認しました。



運輸安全委員会 出前講座



夜間作業立会

安全推進会議

安全推進会議とは、安全統括管理者が主催する会議で毎月開催され、安全に関する様々な議題(事故等の報告・分析及び再発防止策の討議・他社事故事例等)を取り上げ、事故等の撲滅を図るべく努めました。また、過去に発生させたインシデント(鉄道運転事故が発生するおそれのある事態)についても毎年強化期間を設定して対策の有効性を確認し、その結果を会議に諮っております。議事録は社長をはじめ各管理者に回覧し、情報を共有しております。



各職場における安全に関する取り組み

夏季の輸送安全総点検及び年末年始輸送安全総点検に合わせ、当社技術部全社員と協力会社社員を対象に「安全衛生懇談会」「工事安全推進協力会」を開催し、安全及び衛生に関する事項について周知徹底並びに啓発を図るとともに、横断的に情報交換を行い、安全確保に努めました。



工事安全推進協力会

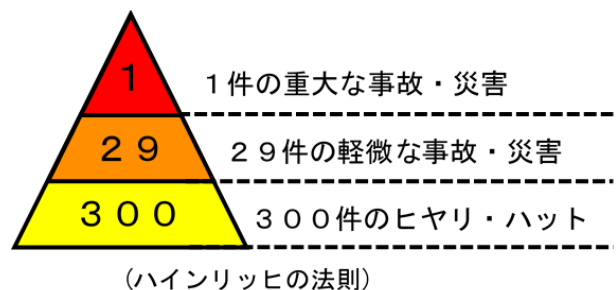
ヒヤリ・ハットに関する取組み

当社ではヒヤリ・ハットについて、日頃から社員・協力会社に対して情報提供を呼びかけ、収集に努めています。

収集したヒヤリ・ハットは、毎月一覧にまとめ、各職場に配布するとともに毎月実施する安全推進会議にて情報共有を行います。また、ヒヤリ・ハットは上期(4月～9月)と下期(10月～3月)に分けて統計をとり、発生原因や発生場所等の傾向を分析し、類似事象の再発防止に役立てております。

【ハインリッヒの法則】

1 件の重大な事故・災害の背後には、29 件の軽微な事故・災害があり、更にその背後には 300 件のヒヤリ・ハット(作業中等に「ヒヤリとしたこと」や「ハットとしたこと」を指し、事故に至る可能性のあった事象)があるという法則です。



コミュニケーションの向上に関する取組み

1. 安全統括管理者と運輸部・技術部の現業長との意見交換会を開催し、現状の把握・情報の共有及び示達事項の徹底等を図りました。
2. 現業長を含む運輸部・技術部会議並びに課内会議(技術部門については現業員を含む)を毎月職場ごとに開催し、現状の把握・情報の共有及び示達事項の徹底等を図りました。



安全統括管理者意見交換会

安全に関する教育

1. 全乗務員に対し、事故や車両故障等を想定した「乗務員集合教育」を机上及び実車を使用して実施し、異常時に速やかに対応ができるよう知識・技能の保有に努めました。
2. 鉄道事業法で規定されている鉄道従事員に対して必要な知識・技能の保有及び習得や安全意識の向上を図るため教育を実施した他、保守・工事の質の向上及び安全作業の維持向上を目的として請負工事会社の社員を対象に「施工管理者講習会」を適時実施しました。
3. 職種転換時・入社時及び昇進時においては「職能教育」を実施し、その職種・職責に必要な知識の確保を図りました。
4. 外部機関等を利用した研修・講習会に積極的に参加し、また外部機関より講師を招き「安全講演会」・「盲導犬ユーザー等対応講習会」等を開催して、職員の資質及び安全意識の向上に努めました。
5. 千葉県警察本部・鎌ヶ谷警察と連携し「テロ対策講演会」を開催して、防犯に対する理解と意識の高揚を図りました。
6. 「国土交通省運輸安全委員会事故調査官による講演会」を実施し、他社での実際に発生した事故事例を分析することにより、安全についての理解を深めました。



安全講演会



乗務員集合教育



テロ対策講演会



盲導犬ユーザー等対応講習会

●社員の声●

旅客課 駅務区 菊地 泰



私は、2018 年度に「盲導犬ユーザー等対応講習会」に参加しました。盲導犬や白杖をご利用のお客様への対応方を、実際に体験しながら学習することで、ご案内の際にはどのようなことに注意が必要なのか深く理解することができました。

このような学習の機会を積極的に活用し、講習の内容を体得することで事故を未然に防ぎ、これからもお客様に安心して駅をご利用いただけるよう努めてまいります。

異常時の緊急体制

事故及び災害等が発生したとき、または発生のおそれがある場合の緊急措置については「異常時対策規則」に基づき対応します。2018年度は事故等が発生したときの連絡体制及び本部体制等の再確認のため、様々な状況を想定した訓練を実施いたしました。

- 4月11日 列車防護訓練
- 7月20日 北総・京成異常時合同訓練(千葉県警察本部と合同で実施。スカイライナー車内にて不審者が薬品をまき散らし、列車の運行に支障を来す事態が発生したことを想定)
- 7月27日 非常召集訓練及び異常時情報伝達訓練
- 8月31日 防災訓練(大規模地震を想定した発災対応訓練)
- 9月1日 防災訓練(一旦停止訓練)
- 11月9日 地下駅における避難誘導訓練(矢切駅)
- 12月13日 異常時対応訓練(矢切駅にて列車火災が発生したことを想定し、消防・警察等と合同で実施)
- 3月11日 列車停止訓練(震災発生を想定、緊急地震速報の自動放送による)

上記の他各部門において、適時異常時を想定した車両の脱線復旧訓練・情報伝達訓練・非常召集訓練・電車線断線復旧訓練等を実施いたしました。



7月20日北総・京成異常時合同訓練

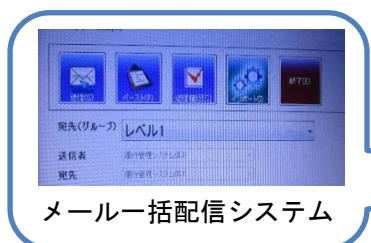


12月13日 異常時対応訓練

運行状況の把握と情報配信

北総線の運行状況は、運輸指令所でリアルタイムに監視を行っています。また、毎日の運行状況は運転管理者・安全統括管理者を通じて社長まで報告し、運行に支障をきたす事象が発生した場合は、携帯電話を用いた「メール一括配信システム」により関係社員へ一斉に周知します。

運行情報は当社ホームページや運行情報ディスプレイ(全駅改札入り口付近に配置)、公式Twitter等を通じて社外にも配信しており、2018年度は、ホームページ上で「列車走行位置」の情報提供を開始しました。



メール一括配信システム



運行情報ディスプレイ



運行情報を提供する駅表示



「列車走行位置」表示画面

5. 安全対策の実施状況

5-1 安全対策のための投資実績と計画

安全安定輸送を確保するため、毎年度、下表の通り鉄道事業における安全対策に対して投資を行っています。

単位（百万円）			
	2017 年度 （実 績）	2018 年度 （実 績）	2019 年度 （計 画）
安全対策に対する 設備投資金額	2,403 (272)	1,156 (286)	1,355 (456)

（ ）内数値は、千葉ニュータウン鉄道投資額内数を示す。

※ 2017 年度は耐震補強工事費(1,637 百万円)を含んでおります。

5-2 安全確保のための措置(設備)

当社では輸送の安全確保を目的として、重要度の高いものから順に効果的かつ効率的に設備改良等を実施しています。2018 年度においては、老朽化したレールの取替、高圧ケーブルの張替等を実施しました。

その他日常的に、法令に定められた点検周期や点検項目に基づき、鉄道施設及び車両について所定の機能を維持・発揮できるよう定期的点検及び検査を実施し、安全で快適な環境を提供するため日夜整備に努めました。なお、線路巡回等により発見した設備の不備に対してはその都度補修を実施しました。

現在、列車の保安設備として、北総線の各連動駅(ポイントのある駅)構内に、高機能ATS(C-ATS)を導入しておりますが、更なる列車運行の安全性向上を目指し、連動駅構内以外の駅間におきましても順次整備し、2023 年度(予定)までに、北総線全線のC-ATS化を進めてまいります。

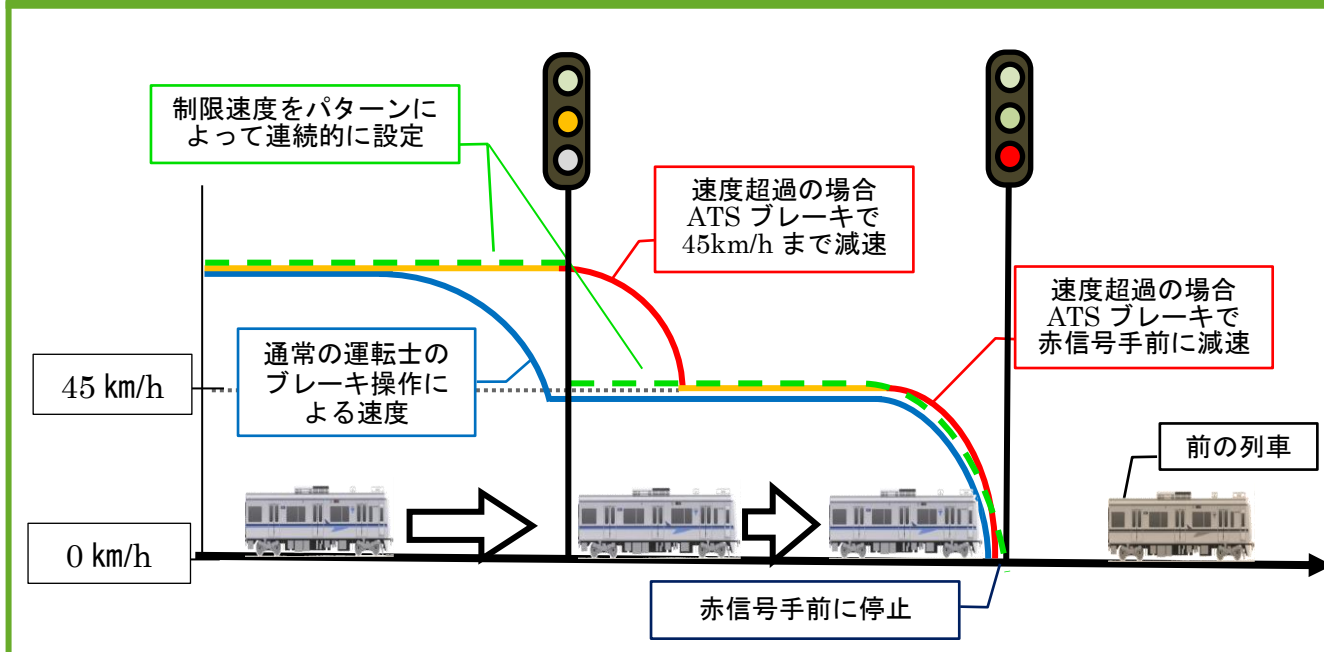
●社員の声●

電気課 電気区 石栗 海人



私たち電気区は、受変電・電線路・電灯設備から信号・通信設備までの鉄道電気設備全般の保守管理・工事を行っています。こうした業務を無事故・無災害で行うには日頃からの実務教育や訓練(研修)が必要不可欠となってきます。実務教育は設備点検時に設備の仕組みや検査方法を先輩方に教わり、電力訓練では梯子昇降訓練等、信号通信関係ではレールボンド交換等により技術力向上を図り安全安定輸送を心掛けています。研修についても低圧高圧の電気の取り扱い方や鉄道電気の仕組みを理解する事で安全作業に取り組んでいます。

C-ATS 概略図



列車無線のデジタル化

更なる安全性向上を目的として、2018 年度より、列車無線装置を現行のアナログ方式からデジタル方式へ変更するための改良工事を開始しており、2020 年度より各編成に導入・運用を開始し、2022 年度に全編成への導入完了を予定しております。これにより、運輸司令と複数列車の乗務員が同時に通話することが可能となり、運行異常時等における情報収集や伝達の迅速化が図られます。また、列車の乗務員用モニターに運行に関する情報を文字で表示することで、乗務員やお客様に対して、より正確な情報提供を行うことが可能となります。

5-3 駅の安全対策

列車非常停止装置

お客様が線路内に転落した時や線路内に障害物を発見した場合等の非常事態が発生した際、お客様にホーム上の「非常停止ボタン」を押していただくことによって、乗務員や駅係員に危険を知らせるとともに、近くを走行中の列車に自動的に非常ブレーキが作用し停止するシステムを全 14 駅に設置しております。これにより事故を防止し、列車の安全運行を図っています。また、お客様から設置位置や使用方法が一目でわかるように、幅広赤白ゼブラテープ・看板及び啓発ポスターによりお客様に周知しております。



ＣＰライン

全駅にＣＰラインを設置しております。

ＣＰとは、「Color Psychology（色彩心理）」の略で、人が危険と感じる度合いが高い色彩を用いてラインを引くことにより、視覚的・心理的にホーム端部の危険性に対して注意喚起を行うものです。



内方線付き点状ブロック

目の不自由なお客様がホームから転落するのを防止するため、全駅のホームに「内方線付き点状ブロック」を設置しております。点状ブロックの内側に線状の突起がついていることで、ホームの内外が判別できるようになっております。



通過列車注意表示

駅ホームの狭小部床面に警戒ライン及び「列車に注意！」を表示し、お客様への注意喚起をしております。また、必要な箇所に手すりを併設し、高速列車通過時におけるホーム上のお客様の安全性の向上を図っております。



車掌用ＩＴＶ（車掌用監視モニター）

車掌が電車の扉を閉める時に、ホームの安全を確認しやすくするため、「車掌用ＩＴＶ」を設置しております。



カラーモニター

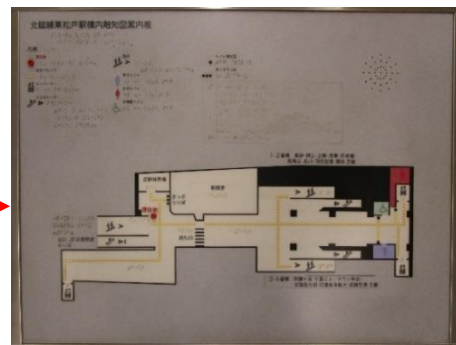
訪日外国人向け避難誘導プラカード

地震等災害発生時において、訪日外国人のお客様に対してもスムーズな避難誘導を行うため、各駅に3か国語(英語・韓国語・中国語)による避難誘導プラカードを配備しております。



音声誘導装置等

国土交通省の旅客施設における音声による移動支援方策ガイドラインに基づいて、お客様及び目の不自由なお客様を券売機、改札口、階段、エスカレーター、エレベーター、トイレ等へ音声で案内誘導するための音声誘導装置及び駅構内配置を示した触知図を全14駅設置しております。



地下駅の火災・停電等の対策

地下駅の矢切駅において、非常用発電機・屋内消火栓設備や排煙設備等を設け火災・停電等の緊急時対策を行っております。また、2003年に韓国テグ市で発生した地下鉄火災事故を受け改正された国土交通省令等に基づき、避難誘導体制を確立しております。



防災総合監視盤



誘導経路図



非常用発電機

駅構内の安全対策

駅構内の安全対策として、全駅にモニターカメラ（全14駅で総設置台数は325台となります）を設置しております。また、駅事務室及び一部は運輸指令所で駅構内の状況をテレビモニターによりリアルタイムに確認でき、記録映像は一定期間保存が可能となっております。機器についてはより高画質（デジタル）のものに順次更新しております。



サービス介助士の資格取得

すべてのお客様に優しい鉄道を目指し、サービス介助士（2018年度は7名が取得し、資格保持者は132名となっております）を各駅に配置しております。なお、資格取得した駅係員につきましては、胸章下部に「サービス介助士」を表示しております。



駅施設のバリアフリー化

ご高齢者やお身体の不自由なお客様が安全・快適に駅施設をご利用いただけるよう、エレベーターや多機能トイレ等を設置し、バリアフリー化を積極的に進めております。なお、2018年度は、東松戸駅のトイレのバリアフリー化工事を行いました。



東松戸駅 男子トイレ



東松戸駅 多機能トイレ・女子トイレ

AED（自動体外式除細動器）

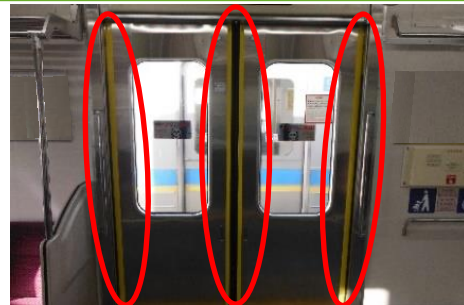
安全に安心してご利用いただける駅を目指し、各駅改札口付近にAEDを全14駅に設置しております。なお、駅係員においては普通救命講習等を受講しており、万が一の際は速やかな対応が取れるようにしております。



5-4 車両の安全対策

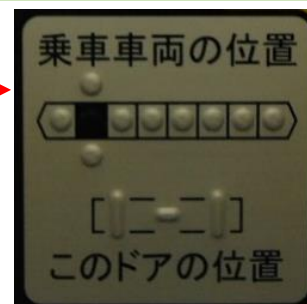
乗降扉の注意喚起シール

引込み・挟まりを予防するため、各車両のすべての乗降扉の端部に注意喚起テープを貼り、扉の識別を容易にする取組みを実施しております。



車内点字案内標

目の不自由なお客様に対し、車内の乗車位置が確認できるよう、全車両のすべての扉に「乗車車両の位置」及び「ドアの位置」の点字表示を行っています。



車内のバリアフリー

先頭車両には車椅子・ベビーカーをご利用のお客様が混雑時にも利用できる専用スペースを設けており、現在 13 編成中 11 編成が対応車となっております。



非常通報器

列車内でお客様が急病になられた場合や、トラブルが発生した場合等の緊急時に備え、乗務員に異常を知らせることができる非常通報ボタンを各車両に設置しております。このボタンを操作することで、乗務員と直接通話を行うことができます。



転落防止用幌

各車両連結部の隙間に、お客様が誤ってホームから線路上へ転落しないように、転落防止用幌を設置しております。



異常時の4か国語放送

2018年度よりICレコーダーの自動音声による4言語(日本語・英語・中国語・韓国語)での車内放送を実施しております。ICレコーダーには「地震発生」や「電車火災発生」等の放送文も登録されており、異常時には訪日外国人のお客様に対してもスムーズな避難誘導のご案内を行うことができます。

5-5 施設の安全対策

鉄道土木構造物の耐震補強工事

首都圏直下地震等の大規模地震に備え、高架橋柱の耐震補強や橋梁の落下防止、トンネル中柱の耐震補強等、鉄道土木構造物を補強し、より地震に強い鉄道施設にいたしました。



大町～新鎌ヶ谷間高架橋

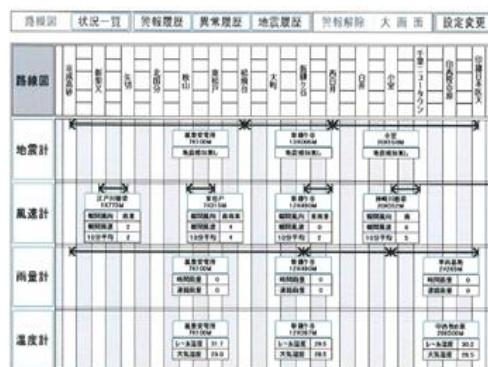
早期地震警報システム

気象庁が発表する緊急地震速報を利用した早期地震警報システム(初期微動から地震規模と到達時刻を予想し、本震が到達する前に列車を停止させるシステム)を導入し、地震による被害の抑制を図っております。



気象観測総合システム

列車運行を管理する運輸指令所に、気象観測総合システムを配備し、当社線に整備された気象観測装置（地震計3カ所、風速計4カ所、雨量計3カ所、レール温度計は3カ所）の数値により、運転規制を伴う規制値を観測した場合、速やかに乗務員へ運転規制を指示し、異常気象時における列車運行の安全確保に努めております。



5-6 その他の安全対策

鉄道テロ対策

駅構内及び列車内における不審物早期発見のため、お客様への協力依頼の啓発放送や駅表示器スクロール表示を実施している他、当社車両各乗降扉の扉ガラスに不審者発見時の鉄道係員への通報依頼に関するステッカー（日本語・英語）を貼付しております。また、駅構内や車両基地等に防犯カメラを設置するとともに、駅構内や車内巡回の際、職員に警備腕章を、委託業者に不審物（者）の発見に協力している旨のワッペン着用を義務付け警備を強化し、鉄道テロの未然防止に取り組んでおります。



通報依頼に関するステッカー



駅構内の防犯カメラ



不審物(者)の発見に協力している旨のワッペン

緊急時支援活動用ワッペン

当社社員が通勤や私用で当社線を利用しているときに、事故や災害等に遭遇し、急遽現場で支援活動を行う際、当社社員であることを判別できる目印として、全社員に緊急時支援活動用ワッペンを配付しております。当社社員は常時このワッペンを携帯し、緊急時には胸元に貼り、支援活動を行います。

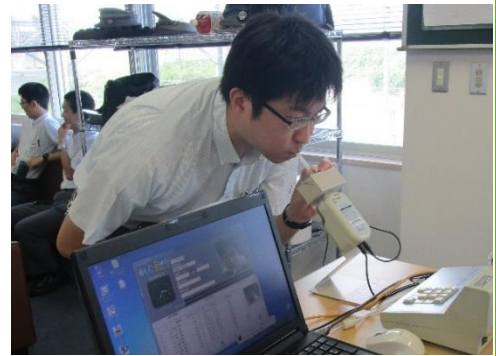


氏名

乗務員の資質管理等

全乗務員に対して電車を安全に運転するための「知識」・「技能」・「適性」の確認を定期的に行い、乗務員としての資質管理を行っている他、S A S (睡眠時無呼吸症候群)スクリーニング検査をはじめ、各種健康診断結果等に基づく健康管理を徹底しています。

また、乗務前にはアルコール検知器による検査を実施するとともに、管理職との対面点呼により、健康状態の確認を徹底して行い、安全運行に努めております。



写真記録付アルコール検知器による測定

●社員の声●

運転課 運転区 黒川 敏彦



私たち運転区管理職は、列車の安全運行のため、年間を通じて乗務員への教育・訓練を実施し、知識と技能の向上に努め、併せて、乗務員としての資質管理（身体機能・知識・技能の確認）を行っています。日常業務では、全乗務員に対して始業点呼前に、アルコール検知器により酒気を帯びていないことを確認し、対面点呼により心身状態等を確認、体調管理を徹底しています。また、ヒヤリハットの積極的な報告と情報共有、基本動作を遵守させることにより、お客様に「安全」と「安心」を提供し、サービス向上に努めています。

安全啓発活動

「ほくそう車両基地まつり」において「列車非常停止装置操作体験コーナー」を設け、ご来場された多くのお客様に列車非常停止装置のボタン操作を体験していただきました。

また、交通安全運動や輸送安全総点検の期間中に、かけ込み乗車防止・ながらスマホ防止のPR文を入れたポケットティッシュを運輸司令員・乗務員が配布し、お客様へ協力を求めました。



列車非常停止装置操作体験コーナー



かけ込み乗車防止のPR

緊急車両

異常時、速やかに点検・復旧を行うため、緊急車両を保有しており、大規模災害等の発生時に通行禁止区間等の走行が可能になる「緊急通行車両」の届出を行っております。また、駅間で列車が停止した場合等に備え、「AT カート」や「軌道自転車」を配備し、係員が速やかに現場に駆け付けられる体制を整えております。



緊急車両



AT カート



軌道自転車

鉄道の安全を守る保守作業車



20 t 軌道モーターカー



25 t 積桁運搬車



マルチプルタイタンパー



ダンプトロリ

他社事故事例への対応

運輸安全委員会から発表される事故等調査報告書や他社で発生した事故事例について、関係部署へ情報共有し、速やかに当社の状況を確認することで、類似事故の防止に努めるとともに、社員の安全意識の向上を図っております。

6. 事故等の発生状況

2018 年度においては、運転事故等（運転事故・輸送障害・インシデント）は発生していません。これにより、関東運輸局長から 5 期（10 年）連続で運転無事故表彰を受賞しました。

今後も引き続き、お客様に安心して電車をご利用いただけるよう、安全を最優先に取り組んでまいります。

7. お客様へのお願い

電車を安全にご利用いただくため、下記事項について、ご協力をお願いいたします。

1. かけ込み乗車はおやめください

かけ込み乗車は、列車遅れの原因となるだけでなく、思わぬケガや事故にもつながり、大変危険です。余裕をもったご乗車をお願いいたします。



2. ホームでは黄色い点状ブロックの内側をお歩きください

列車から降車されたお客様が、ホームを歩行中に転倒し発車直後の列車に接触する事故や線路に転落する事故が発生しております。ホームでは列車から離れ、黄色い点状ブロックの内側をお歩きください。

3. 駅やホームでの「ながら歩き」はおやめください

歩行中にスマートフォン等を操作する「ながら歩き」は、お客様同士の接触やホームから線路への転落のおそれがあり、大変危険ですのでおやめください。



4. 転倒、転落にご注意ください

ご高齢のお客様や酔ったお客様の階段やコンコース等での転倒並びにホームから線路への転落が発生しております。ホームから線路への転落を発見した場合は、直ちに、お近くの「非常停止ボタン」を押し、絶対に線路に降りないでください。

5. 戸袋に手を引き込まれないようにご注意ください

ドアが開く際は、お子様の手やカバン等が戸袋に引き込まれないようにご注意ください。

6. 不審物を発見した場合はお手を触れずにお知らせください

駅構内や車内で不審物を発見された場合は、お手を触れずにお近くの駅係員または乗務員、警戒中の警備員にお知らせください。

7. 線路内に立ち入らないでください

線路内は大変危険です。絶対に立ち入らないでください。

8. 迷惑行為防止のお願い

最近、車内でお客様同士のトラブルが増加しています。すべてのお客様が快適に電車をご利用いただけるよう、携帯電話での通話をご遠慮ください。またヘッドホンの音漏れ等にご配慮いただき、車内マナーをお守りください。



9. お声かけサポートのお願い

お困りになられている方をお見かけになられた場合は、お声かけにご協力をお願いいたします。



8. 当社の安全への取組みに対するご意見募集

当社の安全への取組みや本報告書に関するご意見等がありましたら、下記までお寄せください。

北総鉄道株式会社

ホームページ内ご意見フォームまで
ホームページアドレス : <http://www.hokuso-railway.co.jp>



北総鉄道株式会社
Hokuso- Railway Co.,Ltd.

千葉ニュータウン鉄道株式会社
Chiba Newtown Railway Co.,Ltd.

編集・発行：北総鉄道株式会社 安全推進担当
2019年9月発行